



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第3巻第
6号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第3巻第6号). 泌尿器科紀要 1957, 3(6): 424-424

ISSUE DATE:

1957-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111459>

RIGHT:

編集後記

南極探検とか原水爆実験とか，人間の意志による様々の試みに関係なく，地球上には自然が運行してゆく。今年の京都の春も花も，毎年のように美しかったがいつのまにやら新緑になった。年々歳々花は同じでも人は同じでないと云う昔の人の感慨をそのまま覚えるのである。



医学原稿を書いたり校閲したりするときに文字に就て迷うことがしばしばある。主に当用漢字に関することである。医学用語は殆んど当用漢字集の中にない。腎，膀胱，睪，腺，疹，瘰，兎，蛙などは総てない。当用漢字と医学用語とは全く縁のないもので，当用漢字だけでは医学論文は絶対には書けない。学術用語は当用漢字と別であると云われるのであるが，それならば当用漢字と云うことを無視して従来通り学術用語をどしどし使つてもよいのであろうか。もつと根元にさかのぼつて当用漢字や学術用語の性格と意義はどう云うものか，両者の関係はどうかと云うことを考えなければならぬ。

当用漢字は義務教育の間に教えるものであろうが，それ以外の漢字は自分で覚えねばならぬわけである。それではどこまで覚えたらよいのか，その境界がはつきりしない。学術用語も新聞紙上にたくさん出ている。当用漢字だけしか知らないのでは新聞も読めないことになる。こう考えてくると当用漢字の意義がぼんやりしてくるし，またいかにも不親切のように思われる。

或程度に漢字を制限すること，あまりむずかしい漢字は略字にすること，学術用語でもなるべく当用漢字に近ずけることなどには賛成であるがその程度が問題である。たとえば腫脹と云う字は学術用語集にあるが当用漢字集には二字ともない。ただし張の字はある。原稿を校閲していて腫脹と書いてあると従来は張を脹に訂正していた。学術用語であるから当用漢字でなくてもよいと考えるならば脹の字に訂正するべきであるし，なるべく当用漢字に接近するつもりならば張の字の方がよいことになる。どちらにしたらよいのか，どちらでもよいと云うのでは混乱が生ずる。どちらかに決める必要がある。これは脹に限らず，多くの字に就ても同じである。

購読要項

1. 発行は毎月（年12回）とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円，払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部，或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ），住所（雑誌郵送先），勤務先，職地位，自宅開業の別，送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説，原著，臨床報告，その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き，当用漢字，平仮名，新仮名使いを用い，片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表，附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名，巻数：頁数，年次。
例. 中野：泌尿紀要，1 110，昭30. Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し，之には欧文の標題，所属機関名，ローマ字著者名を付け，なるべくタイプライターを用いること。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円，それ以上の頁，アート頁，図表，写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行方が希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部